

【決算ハイライト】

- ① 2015年度業績について
  - ・ 売上高は370.3億円 (+3.4%)、経常利益は19.5億円 (+16.1%)。  
※カッコ内は前年同月比
  - ・ 一般顧客向けおよび製鉄所システムリフレッシュ着手により、売上高・経常利益とも対前期実績で増加。5年連続の増収増益を達成（過去最高の業績）。
- ② 2016年度業績見通しについて
  - ・ 売上高は394.0億円、経常利益は20.0億円と、2017年度中期計画値の一年前倒し達成を見込む。
- ③ 配当について
  - ・ 2015年度配当は34円/株（期初予想より4円/株 増配）を予定。2016年度の配当予想は年38円/株。
- ④ 中期経営計画の進捗について
  - ・ 中期計画の重点課題である製鉄所システムリフレッシュ、ソリューション事業の拡大、基盤サービス事業の拡大について、着実に進捗中。
  - ・ 製鉄所システムリフレッシュについては、2016年度下期以降の本格化に対応。
  - ・ ソリューション事業の拡大では、製鉄所システムリフレッシュへの提案と、重点ソリューションの強化・展開を図る。
  - ・ 基盤サービス事業では製鉄所システムリフレッシュのIT基盤設計・構築への注力と、新サービスのJFEグループ会社展開を行う。

【質疑応答】

- Q. 製鉄所システムプロジェクト対応の開発要員確保の見通しは。
- A. 従来からの国内のパートナー企業からの増員に加え、オフショアを活用する予定。
- Q. 2016年度計画は2015年度実績に比べ、売上高の伸びに比べ経常利益の伸びが少ないが、理由は。
- A. 2015年度は期末に高収益案件の前倒しがあった。2016年度はこの反動が起きると考える。
- Q. 2016年度は上期で減益、通期で増益の計画だが、上期減益の要因は。
- A. 2015年度の上期が計画以上に好調だったことの影響。2016年度は例年の水準に戻ると見込んでいるため。
- Q. 2016年4月の機構改革で豊田・関西を事業所として独立させた狙いは。
- A. 豊田・関西は売上規模が拡大し、また、ソリューション等を手掛けるなど業務内容も拡大したため、今回事業所として独立させた。

以上